

「特許クレーム解釈と記載要件」

〔目次〕

●ご挨拶	日本弁理士会中央知的財産研究所 所長 伊丹 勝	i
●序 文	主任研究員 鈴木 將文	iii
●研究部会研究員		v
<hr/>		
・ 発明の開示要件からみた上位概念発明の開示について	松下 正	1
・ 食品の用途発明のクレーム解釈	重富 貴光	15
・ プロダクト・バイ・プロセス・クレームの解釈と明確性要件	愛知 靖之	33
・ 機能的クレームのクレーム解釈と記載要件等について	三山 峻司	55
・ 機能的クレームとサポート要件 — 広すぎるクレームが許容される限界 —	岩坪 哲	75
・ 化学分野における機能的クレームの権利解釈と記載要件 — 特に「機能限定剤」表現を中心として —	細田 芳徳	89
・ 医薬用途発明のクレーム解釈と記載要件 — 英国法における第二医薬用途クレームに係る裁判例を踏まえて —	平嶋 竜太	109
・ 「広すぎる」特許規律の法的構成 — クレーム解釈・記載要件の役割分担と特殊法理の必要性 —	前田 健	137
・ 上位概念で記載されたクレームと利用発明 — 選択発明・リーチスルークレーム —	井関 涼子	157
・ 機能的クレーム・ソフトウェア発明クレームの解釈と記載要件 — 米国の動向と日本への示唆 —	鈴木 將文	171
・ 米国における保護適格性判断時の明細書参酌 — 明細書中の課題・効果は保護適格性判断の指針となり得るのか? —	川上 桂子	185
・ 特許発明の技術的範囲の画定のためのクレーム（特許請求の範囲）の解釈において、 明細書に記載されていない公知技術の参酌はどこまで許されるか	大瀬戸豪志	209
・ AI・IoT技術によるビジネスモデルに対する知的財産権 — 特許権による保護のためのクレームと明細書 —	酒井 將行	223
<hr/>		
●事項索引		259
●判例索引		261
●アンケート		265